

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和3年 3月 18日

グループ名	関東自立活動研究会	フリガナ 代表者氏名	タノエ 田添 イブユキ 敦孝
学校名 (代表者)	都立小平特別支援学校 (校長 加藤 洋一)	電話番号	042-344-4537
研究テーマ	自立活動の実践と教師の専門性向上を目指した取組 ～実態把握から指導目標・指導内容の設定までのプロセスの明確化～		
研究期間	令和2年 4月 1日 から 令和3年 3月 31日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	本研究会は学習指導要領解説自立活動が示されている実態把握から指導目標・内容の設定に関するプロセスについて、継続して研究を進めてきた。 今年度は文部科学省特別支援教育視学官分藤賢之先生をスーパーバイザーとして招聘し、自立活動の指導における個別の指導計画の作成におけるプロセスとして、実態把握から課題を焦点化し指導目標、指導内容を設定するまでの流れについて、障害種別に具体的な事例の授業研究を実施して、自立活動の指導事例集を作成して、自立活動における教職員の専門性向上を図るとともに、本研究のテーマである自立活動の指導のプロセスを参考にしながら、自立活動の指導における個別の指導計画の作成に関するテキストを作成した。また、新型コロナウイルス感染の中、新たな研究会の様式としてオンラインによる研究会を実施し、2020年8月中間報告会、2021年1月には関東自立活動オンライン報告会を開催して自立活動の指導の充実に向けた研究会成果を広く報告した。 (別紙1) 令和2年度 第1回 関東自立活動研究会オンライン研究会 ・日時：2020年 5月 9日(土) 10:00～14:00 令和2年度 第2回 関東自立活動研究会オンライン研究会 ・日時：2020年 6月20日(土) 10:00～14:00 令和2年度 第3回 関東自立活動研究会オンライン研究会 ・日時：2020年 7月11日(土) 10:00～14:00 令和2年度 関東自立活動研究会夏季オンライン中間報告会 ・日時：2020年 8月22日(土) 10:00～12:00 令和2年度 第4回 関東自立活動研究会オンライン研究会 ・日時：2020年 9月19日(土) 10:00～14:00 令和2年度 第5回 関東自立活動研究会オンライン研究会 ・日時：2020年10月31日(土) 10:00～14:00 令和2年度 第6回 関東自立活動研究会オンライン研究会 ・日時：2020年11月28日(土) 10:00～14:00 令和2年度 第7回 関東自立活動研究会オンライン研究会 ・日時：2020年12月19日(土) 10:00～14:00 令和2年度 関東自立活動研究会オンライン報告会 ・日時：2021年 1月16日(土) 10:00～14:00 参加者 21名		
その他 特記事項	2022年度も関東自立活動研究会活動を継続する。		

別紙 1

2020年教育研究グループ支援（研究成果報告）「関東自立活動研究会」報告書

1. 研究の趣旨と経過

2020年度、新型コロナウイルス感染が長期に渡り収まらない中、新たな生活様式に伴う研究会としてオンラインによる研究会を実施した。また、2020年8月中間報告会、2021年1月には関東自立活動オンラインによる報告会を開催して、自立活動の指導の充実に向けた研究会成果を広く報告した。本研究会は学習指導要領解説自立活動が示されている実態把握から指導目標・内容の設定に関するプロセスについて、継続して研究を進めてきたが、今年度は文部科学省特別支援教育視学官分藤賢之氏をスーパーバイザーとして招聘し、自立活動の指導における個別の指導計画の作成におけるプロセスとして、実態把握から課題を焦点化し指導目標、指導内容を設定するまでの流れについて、障害種別に具体的な事例の授業研究を実施した。また、自立活動の指導事例集を作成して、自立活動における教職員の専門性向上を図るとともに、本研究のテーマである自立活動の指導のプロセスを参考にしながら、自立活動の指導における個別の指導計画の作成に関するテキストを作成した。

2. 研究の成果

自立活動における個別の指導計画作成として、2021年1月16日（土）に関東自立活動研究会オンライン報告会を実施した。新たな参加者を加えて、児童生徒の実態把握から具体的な指導内容設定指導の評価までのプロセスに沿って、研究報告をした。

当日は以下の通りであった。

① 事例報告

② 自立活動の指導のテキスト（別紙2）

実態把握から具体的な指導内容設定の手順 ～課題関連図作成を通して～

③ 研究経過報告

④ 指導講評

3. 研究の考察と今後の課題について

本報告において、いくつかの提言がされた。まず最初に、自立活動の指導について、学習指導要領解説自立活動編より以下について確認をした。

- ① 個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動である。
- ② 個々の幼児児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に即して指導を行うことが基本である。
- ③ 自立活動の指導に当たっては、個々の幼児児童生徒の的確な実態把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、個別に指導目標や具体的な指導内容を定めた個別の指導計画が作成されている。

次に、学習指導要領解説自立活動編より、自立活動の個別の指導計画の作成の手順の中に、実態把握から指導目標を設定する過程において、指導すべき課題を整理する手続きを導入し、指導目標を設定するに至る判断の根拠を記述して残すことが要点として示されている。

その上で

① 指導すべき課題との関連について

指導すべき課題との関連について重要な視点を以下のように確認した。

- 個別の指導計画を作成する上で、最も重要な点が、実態把握から指導目標を設定するまでのプロセスにある。
- 自立活動は、教科のように目標の系統性は示されていないため、自立活動における個々の指導の継続性を確保するには、個別の指導計画を確実に引き継いでいく必要がある。
- 個別の指導計画を通して、前年度までの指導担当者が、個々の実態をどのように捉え、なぜその指導目標を設定したのかといった、設定に至る考え方を指導担当者間で共有していくことで、指導の根拠を明らかにしやすくなり、指導への理解と継続性も保たれる。

② 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れについて

自立活動の指導においては、個々の実態に即して、指導の道筋そのものを組み立てていくことが求められる指導であることに留意することともに、児童生徒について収集された多様な情報の整理の方法はいろいろ考えられるが、まずは、例示を踏まえ、「実態把握」から「具体的な指導内容の設定」に至るまでの流れについてのイメージをもつことが大切であるが明らかになった。

③ 指導目標（ねらい）の設定について

指導目標の分析や整理を進めていくためには、特定の教師だけに任せることなく、複数の教師で検討する学校のシステムを構築していくことが望まれる。

こうした提言を基本に、関東自立活動研究会オンライン報告会を終えることができた。

今後、事例研究を通して、自立活動の指導における選定した項目を関連付けて具体的な指導内容および、自立活動の評価に関するについて研究を進めて 2021 年度に報告していく計画である。

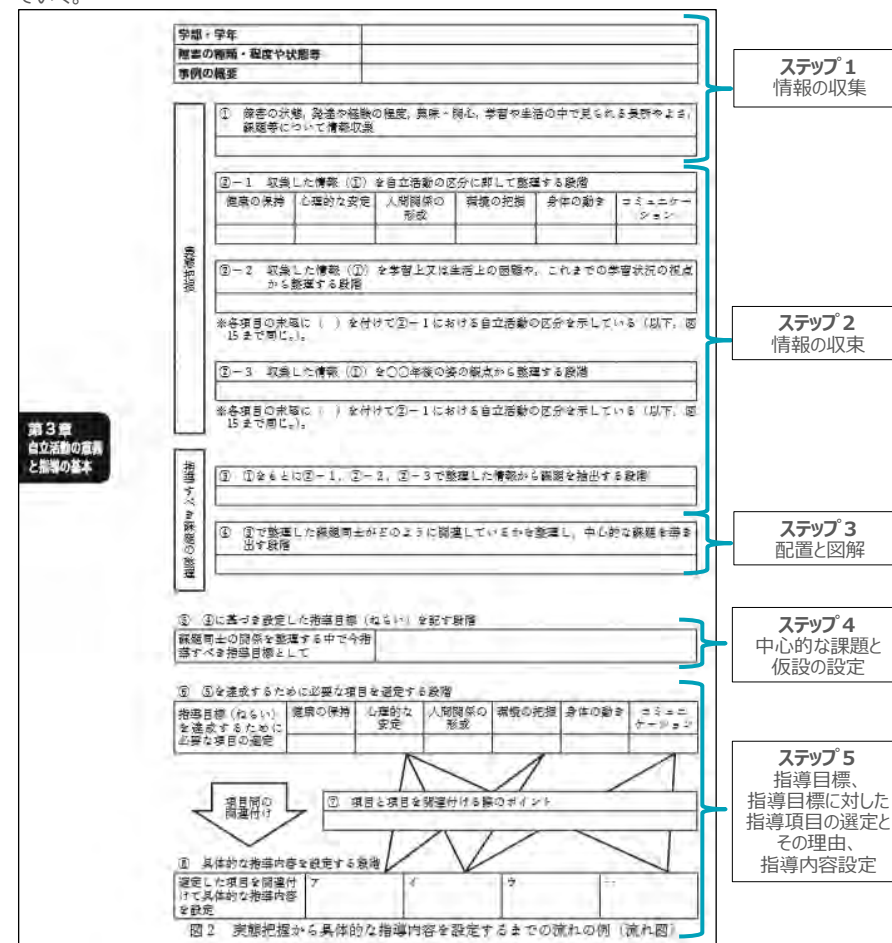
自立活動の指導 テキスト

実態把握から 具体的な指導内容設定の手順 ～課題関連図作成を通して～ (2020年度 抜粋版)

関東自立活動研究会

本手順書の構成

平成 30 年 3 月に出された特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編の 28 ページには、このような、子どもたちの実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例が載っている。関東自立活動研究会の課題関連図は、この流れ図を参考にしながら、ステップ1～5を経て作成していく。



ステップ1 情報の収集

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 P29 2段階目

児童生徒の全体像の実態把握を行い、情報を付箋に記入するステップです。

(1) 児童生徒の全体像の実態把握を行う。

【観点】

・学部・学年・卒業までの年数・障害種・学習面のこと・生活面のこと・発達検査・本人や保護者の願い・将来の希望(進路希望含む)・〇〇年後の姿を踏まえた担任の願い など。

※全体像の実態把握の観点は各学校で定める必要がある。個別的教育支援計画などを参考にすることもよい。

(2) 学習上又は生活上の困難な姿、指導に活かせる強みについて情報を付箋に記入する。

【学習上又は生活上の困難な姿】 = **困難な姿を引き起こす要因** + **後続の状態** の公式で記入。

- ・困難な姿を引き起こす要因については、人や状況などを明確に記入する。
- ・曖昧な表現は避ける(など、等と言う表現はしない)。
- ・学習上又は生活上の困難な姿(行動・発言等)を1日の流れや1週間の流れを想起しながらできる限り付箋に記入する。
- ・〇〇年後の姿についても念頭におく。
- ・困難な状態だけではなく、指導に活かせる強み(すでにできていること、その子の持ち味、指導の中で伸び始めていること)についても記入する。指導に活かせる強みの付箋は、公式に当てはめて書かなくてよい。
- ・たとえ“もやもや”したままでも、とにかく書き出していく。

(付箋の書き方の例)

A さんの手を触った時に、
手を引かれたり、つねられたり、避けられたりするんだよね。
大人と一緒に何かをやって楽しめないし、共感性が育っていないから、
人間関係の幅が広がらないよね。

公式に沿って付箋を書くと、**学習上又は生活上の困難な姿**は・・・

他者に手を触れられると ← **困難な姿を引き起こす要因**

手を引いたり、つねられたり、避けられたりする。 ← **後続の状態**

改行すると見やすい!

ステップ2 情報の収束

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 P29 3段階目

各々がもっている児童生徒の情報を自立活動の6区分27項目に分類することを通して、児童生徒のイメージや課題を共有し、課題を焦点化するステップです。

(1) 付箋を模造紙に表示し、1枚1枚の付箋に書かれた内容を6区分に振り分ける。

- ① ステップ1で収集した情報「卒業までの年数」「〇〇年後の姿」「本人の願い」「保護者の願い」「担任の願い」「進路希望」などをまとめ、模造紙の上部に置く。(以下、「〇〇年後の姿、ねがい」とする)
- ② 付箋の内容の共通理解を図る。
- ③ 課題を抽出する。
以下の内容の付箋は、端に寄せて課題からは外し、ステップ3やステップ5で活用する。
 - ・指導に活かせる強み(すでにできていること、その子の持ち味、指導の中で伸び始めていること)。
 - ・学習上や生活上の困難さに該当しない。
 - ・現状を維持していくことが妥当であると考えられる。
 - ・これまで指導してきたがなかなか指導の効果がでない。
 - ・残りの在学期間で指導するのは難しい。
 - ・〇〇年後の姿との関連が弱い。
- ④ 抽出された課題を自立活動の6区分に振り分け、付箋に区分を記入する。
 - ・困難な状態を引き起こす要因と後続の状態のどちらに重きを置いて指導するかを決め、それをもとに区分を検討する。
 - ・「心理的な安定」であれば、略して「心」や区分番号の「2」と書いてもよい。
 - ・複数の区分にまたがる付箋は、複数の区分を記入する。
 - ・協議する中で、「これは〇〇だからだね」などと背景要因が推測された場合には、付箋にメモしておくとうい。

(2) 6区分に振り分けた付箋に区分内の項目の番号を記入する。

・複数の区分を記入した付箋は、区分ごとに項目も記入し、付箋を分ける。分けた付箋には、※を書くなどすると、付箋を複数に分けたことがわかりやすい。

(3) グループに分けて、表札づくりをする。

- ① 付箋に示された区分と項目が同じ付箋を集める。
- ② 表札をつける。
 - ・自立活動学習内容要素表の目次(巻末資料1)を参考に表札をつける。
 - ・同区分・同項目であっても「改善・克服のために必要な学習の要素」によって表札が変わる場合がある。
 - ・ただし、議論の結果、自立活動学習内容要素表の目次ではなく、自分たちが考えた要素を加えた表札名になる場合がある。

ステップ3 配置と図解

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 P29 4段落目

課題同士の関連を検討するステップです。

線で、グループ同士の関係を表示し、全体が関連をもった図解にする。

- ① ステップ2までの協議を参照しながら、表札の意味が近いグループや関連のありそうなグループを近くに配置する。
・ステップ2(1)③で外した、指導に活かせる強みの内容の付箋も配置する。
- ② ステップ2(1)①で整理した「〇〇年後の姿、ねがい」につながりそうな課題はどれかを考え、☆印をつける。
- ③ 課題との関連性を考え、担当者の引きやすいところから線を引く。
- ④ 図解の配置や線を引くことで、付箋の関係性を再考する。
- ⑤ 再考したことを振り返りながら、すべての線を引ききっているかどうか、再度確認する。
・特に☆印をつけた課題と他の課題との関連性を見出していることを確認する。

【線の種類】

関係あり、何かありそう（直感）	—————
原因と結果の関係	————→
相互に作用する関係	————↔
相反する関係	————>————<
できること、得意なことをいかす線	- - - - ->
指導によって芽生えてきた線	- - - - -

【線を引くときに参考にする視点】

- ・原因と結果。
- ・相互に関連しあっている。
- ・発達や指導の順序性。
- ・育ちつつある力など、指導に活かせる強みの付箋を参考に。

ステップ4 中心的な課題と仮説の設定

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 P29 4段落目

中心的な課題を導き出し、指導仮説を設定することで、「なぜこの指導目標か」を明確化するステップです。

(1)図解をもとに中心的な課題(どこから+どこまで)を設定する。

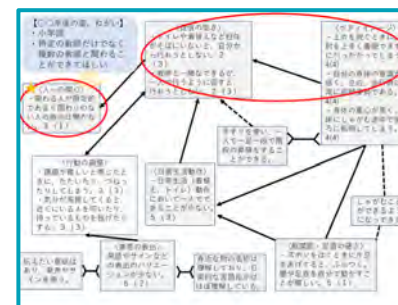
①矢印がたくさん出入りしている課題に着目する。

②「〇〇年後の姿、ねがい」の付箋の内容を参照しながら、中心的な課題(どこから)を設定し、赤で囲む。赤で囲む課題は複数でもよい。

③ステップ3②で☆をつけた課題に向けて、中心的な課題(どこまで)を設定し、赤で囲む。

④赤で囲んだ課題が、今取り組む必要のある課題になっているかどうかを確認する。

(中心的な課題の設定の例)



(2)指導仮説を設定する。※指導仮説シート(巻末資料2)に記入していく。

① 現在の姿を記入する。

中心的な課題(どこから)として赤で囲んだ部分を文で表記する。

複数のグループを赤で囲んだ時は、そのグループの関係性が見えるような文で表記する。

② STEP2(1)①を参考に、〇〇年後の姿・ねがいを記入する。

③ 指導仮説の中心的な課題(どこから+どこまで)を記入する。赤で囲んだグループの表札とその関係が見えるように、図で示す。

(指導仮説シートの例)



特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
P29 5段落目 P30 1～3段落目

(1)指導目標を設定する。

- ・指導目標は具体的に設定する。
例:「教師と」→どんな教師?特定の?身近な?様々な?

- ・ 関連図で中心的な課題(どこから+どこまで)として○をつけた付箋の区分項目を記入する。
- ・ 記入する際には、「項目番号 項目名 <表札>」という書き方で統一する。

- ・ 選定した項目同士を関連付ける。

・記入する際には、以下の書き方で統一する。
「＜○○○○をねらい＞ 区分 ＜表札＞ 項目番号 を関連付けて具体的な指導内容を設定した」

- ・(3)で記したねらいにつながる具体的な指導内容を設定する。

- ・本人の主体的な取組として、具体的な指導内容を記載する。

・指導に活かせる強みの付箋などを参考にとるとよい。

(指導目標の設定 指導項目の設定と関連付け、指導内容の設定の例)

ページ 6